

努力賞

柳田さんへ

荒川区立第七峡田小学校 六年

鷺尾 杏

こんにちは。私は、「わたしの妹は耳がきこえません」という本を読んで、この手紙を書きました。

私はテレビ等で耳の聞こえない人を見た事があります。でも、耳の聞こえない人達はそんな事は関係がないんだと言って笑顔をを見せていました。私は、悲しくないのかな。悔しくないのかな。と思っていました。

でもこの本を小さい頃読んだ時、耳が聞こえなくても体でひびきを感じるのが好き。運動が好き。だから好きな事をすれば良いんだよ。本がそんな事を語りかけているように感じました。

そこで私は考えました。今まで全く耳の聞こえなかった人が、急に耳が聞こえるようになったらどうでしょうか。きっとその人が私だったら、うるさい。怖い。と思うと思いました。

だから、耳が聞こえないのも、目が見えないのもそれは個性なんだと。柳田さんはどう思いますか。

この本の中で、危ない。と言っても耳の聞こえない人には分からない。という事を知りました。

だから、私も困っている人がいたら、今よりもたくさん手助けをしようと思いました。柳田さんも明るくなりたい時には、「私の妹は耳が聞こえません」という本を読んでみて下さい。